

古宮城の御城印

武田信玄が築かせた境目の名城



続日本 100 名城の城



古宮城 (市史跡)

所在地 / 愛知県新城市作手清岳字宮山

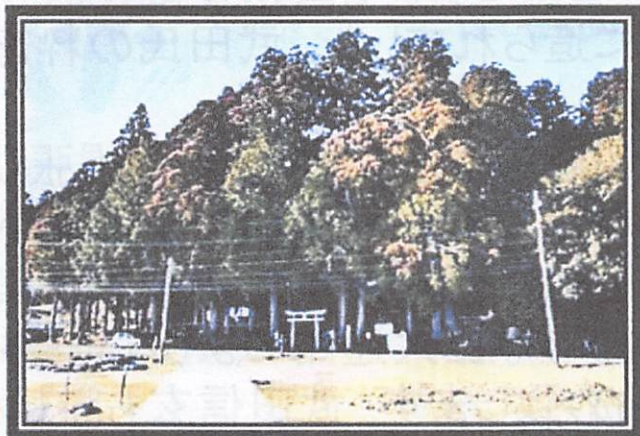
時期 / 元龜 2 年(1571) ~ 天正元年(1573)

城主 / 小幡又衛門、甘利左衛門、大熊備前守

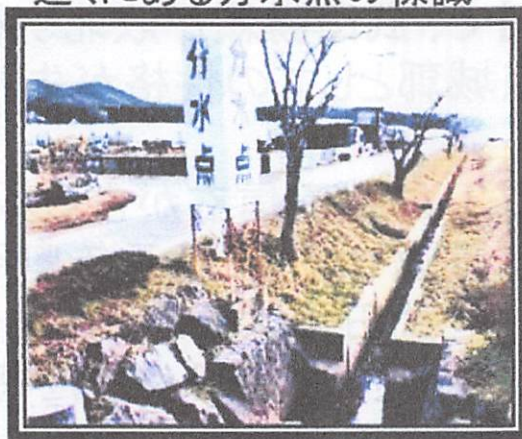
概要 / 元龜 2 年(1571)に武田信玄が築城しその縄張りを重臣馬場信春が行った。徳川流の縄張りも混在しており、後に徳川家による改修が行われた可能性も残されている。地形に応じて、土塁、塹堀や横堀、曲輪、虎口、馬出、土橋などが配置され、中世の山城の面影をほぼ完全な形で残している。

- 古宮城は、自然と人工の英知が結集された、防備に優れた高度プランで築城された城郭で丘陵全体を縄張りにした城で、武田信玄が領地の最前線の境目に築いた城です。続日本100名城です。作手高原の盆地の中央にあり、2本の【巴川】、の分水点があります。西へ向かう方は矢作川につながり、東の流れは、豊川に注いで豊橋に至ります。

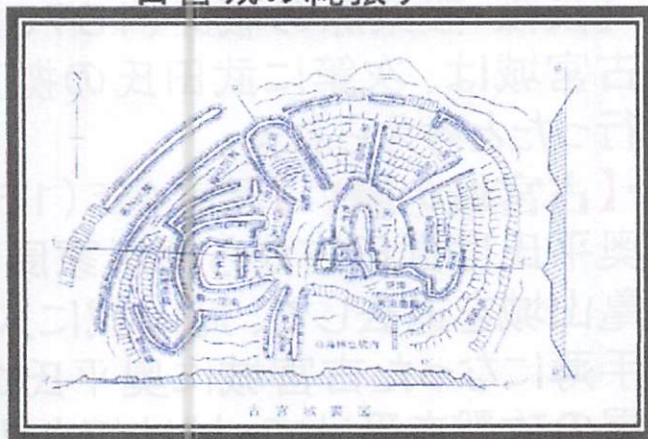
古宮城は白鳥神社裏の丘陵にあります



近くにある分水点の標識



古宮城の縄張り



③【長篠・設楽原の戦い本章】：長篠城の解説



住所 新城市長篠城跡

城の説明	見どころ: 話どころ	聞きどころ
場所	奥三河の長篠城	奥平貞昌VS武田勝頼
結果	奥平貞昌の勝利	長篠城籠城軍解放勝利
交戦戦力	長篠籠城軍 500人 戦死者不明極僅か? 記録無	武田軍 15,000人 戦死者 弾薬庫の攻撃で800人程度
特記事項	九州中津タニシまつり	江戸末期は九州中津10万石大名



長篠城駅



日本100名城NO46武田軍の猛攻を凌いだ断崖上の城
 長篠城は武田信玄亡き後、城主菅沼正定を奥平貞昌が攻め落城させた軍功により徳川家康から城主を拜命された。

*長篠城は、宇連川と寒狭川が合流する断崖上に築かれた要害堅固の城である。創築は【山家三方衆】の一人の土豪菅沼元成。戦国末期、武田氏と徳川氏が争奪を繰り返した末に、徳川家康家臣の奥平昌信が(若干20歳)が守る長篠城籠城戦の舞台になったことで有名である。

城郭は主郭(本丸)、野牛曲輪、弾正曲輪が残っている。本丸入り口に横矢掛けの空堀を残している。中世の城です。城の縄張りは、現在の東方向にJR長篠駅辺りから、長篠城大手門跡は【宝売り場福ちゃん】の場所にあり小城ながらかなりの広さを誇り、長篠の籠城戦では500名の城兵が守っていた。長篠古戦場の周辺には、武田勝頼が長篠攻めの本陣を置いた、【長篠山医王寺】や武田四武将訣盃の地の【達磨山大通寺】、鳥居強右衛門を祀った【新昌寺】、武田軍が、長篠城の見張りの為に築いた【鳶ヶ巣山砦】、復元された【中山砦】等の史跡があり見ごたえがある。

牛淵橋から見た長篠城址 5月の長篠のぼりまつり

